# サッカーのボランチにおける攻守にわたるスプリント回数とその重要性

嘉茂良悟（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　山田　庸

キーワード：切り替え，走行距離，セカンドボール

## 1.　研究背景

近年パスサッカーが主流となっているが，ボランチはその中継役として重要な役割を担っており，攻守両方に加わり，軸としてチームを支えなければならない．また，最近では走行距離やスプリント回数が数値で表せるようになった．サッカーは，現在もそしてこれからもランニングという要素が非常に重要なスポーツである．河治（2013）はサッカーの統計データの中で走行距離の重要性について述べている.「走ること」の重要性を指摘するサッカー関係者は多いが，具体的な数字として１試合中にどれだけ走る必要があるのかを示す必要がある.

そこで本研究では，J リーグ 2016 公式試合に出場した上位チームのボランチ選手を対象に，攻守にわたるスプリント回数及び走行距離を比較し，試合中のプレーとの関係性を検討することを目的とした.

## 2.　研究方法

J リーグ 2016J1 第 13 節から第 17 節までの各試合について，公式ホームページに掲載されている公式記録および統計データより，①総走行距離，②スプリント数を収集した．また，J リーグ公式映像を視聴し，ボランチがスプリントをしたプレーを観察した．プレーを①攻撃時の効果的なスプリント，②守備時の効果的なスプリントの各項目に分類しプレー数を選手毎に集計した.

## 3.　結果および考察

３選手を比較すると，井手口選手は他の２人の選手より総走行距離もスプリント回数も多くみられた．逆に大島選手は他の２人の選手よりも少ないことが量的評価から明らかとなった（図 1）.

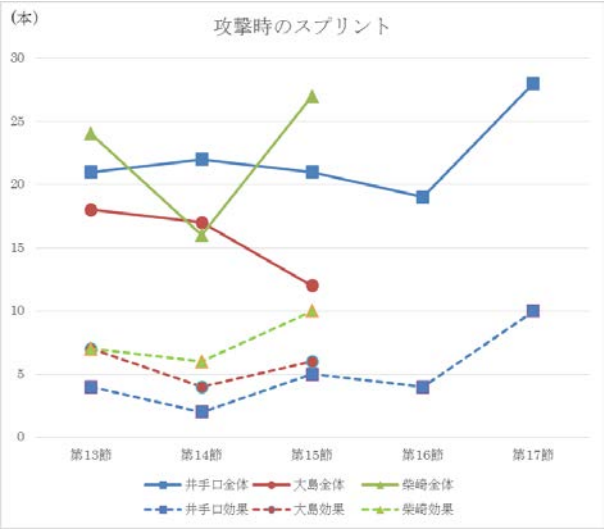


図１　攻撃時の効果的なスプリント

質的評価の観点からは，確かに井手口選手はスプリントも多いため，攻守に関わってくる回数が多く，ゴールも２得点決めており，スプリントが攻守において効果的だと考えられた．一方，チームのサッカースタイルでスプリントの数は変わってくるのではないかと考えられる.川崎フロンターレは特に特徴的で，細かいパスを繋ぎながらゴールに向かっていく超攻撃的サッカーで近い距離でパスを繋ぐため，スプリントの数は減るのではないかと推測された．逆にガンバ大阪や鹿島アントラーズは長短のパスを織り交ぜてアグレッシブなサッカーをするため，必然的にスプリントが生まれるのではないかと考えられる.

つまり，スプリント数は１つの重要なパフォーマンスの評価規準であるものの，チームのスタイルも考慮した解釈が必要である.

引用・ 参考文献

河治良幸 (2013) サッカーの見方が変わる データ進化論,ソルメディア：東京.